



KUMAMOTO

YMCA NEWS

THE KUMAMOTO
YOUNG MEN'S
CHRISTIAN
ASSOCIATION

2017
1.2
No.535

長男の惟月くんをYMCAの体育英語幼稚園に通わせている寺本美聡さん。実は美聡さん自身も同じ卒園児でした。そして美聡さんのご両親の藤山英美さん、久美さんにもYMCAでの思い出があります。親子3代でYMCAに関わる皆さんにお話をうかがいました。

親子で受け継がれる2歳児プログラムの魅力



親子で入園!
子どもたちの成長が
楽しみです

寺本美聡さん

4人の子どもを
全員通わせました

長女 葵唯ちゃん

母 藤山久美さん

長男 惟月くん

父 藤山英美さん

結婚前から知っていた体育幼稚園の魅力

「看護学校に通っていた20代の頃、当時YMCAの理事だったお医者さんから、YMCAのキャンプのボランティアに誘われました。その時のリーダーから『YMCAには体育幼稚園があるんですよ』と聞き、母親になったらぜひ入れたいと思っていました」と藤山久美さん。夫の英美さんは「高校時代、中央センター(当時)にできたばかりのアイススケートクラブにずっと通っていました。50年以上前ですね」と懐かしそう。若い時代にそれぞれYMCAとの関わりを持っていたお二人が結婚。久美さんは、長男が生まれてリーダーの言葉を思い出します。

長男が入園した頃、周りには泣きながら参加する子もいましたが、水泳プログラムを体験したくらいから子どもたちの成長を実感したと久美さん。クラス全員の間、幼いなりに互いに協力しあう心が生まれている様子を見て感動したそうです。「親も子も心の準備ができ、幼稚園にも不安を感じることなく送り出すことができました」と言います。

体育英語幼稚園の前身である体育幼稚園は、1973年にスタート。プレスクールの先駆け的存在として、心と体が大きく成長する2歳児に合わせた体育プログラムを行ってきました。思いきり全身を動かし、子どもたちの社会性と可能性を育むことを目的としています。その後、外国人講師による英語プログラムを追加。現在は中央・ながみねファミリー・むさしの3YMCAで、週3回、午前中に活動しています。

今も大切に持っている 母が作ってくれたキャンプ思い出のクラフト

藤山さんご夫妻の長女、寺本美聡さんも3人の兄たちに続いて入園。美聡さんは、「親子キャンプに参加した時の思い出の品を今も大切に持っています。母が木の枝で子どもの顔を作ってくれたものです」と笑顔です。

そして、美聡さんの長男で、藤山さんご夫妻の孫になる惟月くんも、昨年4月に園のメンバーに。「幼稚園に入る前に社会性を身につけてもらいたいと考えていたのですが、何が息子に合っているか、なかなか決められませんでした。そんな時、母から『あなたはYMCAに通っていたじゃないの』と言われたんです。早速9月の体験会に参加してプログラムの内容を聞き、入園を決めました」と話します。



左が親子キャンプの時に久美さんが美聡さんに作ったクラフト。YMCAからはメダル(右)がプレゼントされた



体育幼稚園ではスケートも経験。右側が美聡さん。奥が久美さん。

子どもたちの視野を広げる場であってほしい

入園直後の地震による中断があったものの、今、惟月くんはとても元気に通っています。「私を園児役にして英語の先生の真似をするんですよ」と目を細める久美さん。美聡さんも「明日はYMCAだよ、と言うとニコニコと笑うので、楽しみにしているようですね。家ではリーダーの真似をして、よく絵本にふれるようになりました」と惟月くんの成長を実感しています。「リーダーが子どもたちの様子を丁寧に報告してくれるので安心です。初めは元気がよすぎる活発な子でしたが、半年以上が経ち、集中力を持続できるようになったようです」。

また、クラスの親同士も親しくなって、子育て中の孤立感を感じることもないそうです。「空港へ飛行機を見に行く園外プログラムや、働いている人に感謝して花をプレゼントする行事など、子どもたちの視野を広げる試みが用意されていて、とても素晴らしいと感じています。多くの子どもたちがこのプログラムを体験できるといいですね。生まれたばかりの葵唯も、2歳になったら入園させます!」と話してくれました。



ながみねファミリーYMCAのお祭りでは園児がテープカットを担当

Pickup

市民クリスマス
チャリティー
コンサート



国際協力
青少年育成
年末街頭募金

黒川保育園
クリスマス発表会



Information 行こう 見よう 深めよう

楽しみながら社会貢献 YMCAチャリティープログラム

楽しむ
×
チャリティー

今年も、各YMCAでチャリティープログラムを開催します。益金は、国際協力青少年育成成年末募金に充てられます。

みなみYMCAチャリティーフェスタ

日 2017年1月22日(日)

場 みなみYMCA(熊本市南区田迎)

内 食品サンプル作成体験、バナナペーパークラフト、御船町恐竜博物館わくわく体験教室、さかあがり教室、プロ直伝！お菓子作り、フェイスペインティング、親子スポーツストレッチ、腰痛・肩こり・姿勢改善ストレッチポール、ミニマルシェ、ミニバザー等
※各コーナーの実施時間・お申込み方法はWEBページをご覧ください。



問 みなみYMCA TEL 096-378-9370

むさしYMCAチャリティープログラム

日 2017年1月22日(日)

場 むさしYMCA(合志市幾久富)

内 逆上がり教室、バスケット教室、苦手克服水泳レッスン、プール開放、親子サッカー、成人フィットネス体験、親子マラソン、リフレクソロジー、エコバッグ作り、のみの市、食バザー
※各コーナーの実施時間・お申込み方法はお問い合わせください。

問 むさしYMCA TEL 096-248-6334



3年間の集大成 YMCA学院 児童福祉教育科卒業発表会

学び
×
感動

毎年、大きな感動を呼んでいるYMCA学院児童福祉教育科の卒業発表会。卒業を控えた3年生が自分たちで企画・運営する舞台です。創作劇や合唱、ダンスなどを披露。今年のテーマは「あいメッセージ」。たくさんの愛を届けます。



2015年度卒業発表会 合奏

熊本公演

日 2017年1月22日(日) 開場13:00/開演13:30

場 フードパル熊本 熊本市食品交流会館 多目的ホール

益城公演

日 1月25日(水) ※1日2回公演

〈1回目〉開場9:30/開演9:50 〈2回目〉開場13:00/開演13:30

場 益城町文化会館 問 YMCA学院 TEL 096-353-6393

熊本バンド結盟141周年早天祈祷会 ボランティアデー

キリスト教
×
ボランティア

日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった熊本バンドの141周年を記念してボランティアデー・早天祈祷会を開催します。

ボランティアデー

日 2017年1月28日(土) 9:30~11:00

※雨天中止

場 花岡山山頂周辺(鐘掛松一帯)

内 清掃活動・ぜんざい会

※各自で軍手・箸・お椀をお持ちください。



早天祈祷会

日 2017年1月30日(月) 6:30~7:30

場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

奨励 内村公春さん(学校法人九州ルーテル学院長・社会福祉法人慈愛園理事長)

問 熊本YMCA TEL 096-353-6397



日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 案 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

総主事のタラント Vol.33



子どもの未来

新しい年を迎えました。2017年が皆様にとって希望に満ち溢れた一年になりますことをお祈りいたします。

長男夫婦と同居している我が家では、孫との賑やかな日々を送り、同時に、子育てに奮闘する親の姿を間近に見ています。子どもたちをかけたえのない存在として受け止め、惜しみない愛を注ぐ姿に安堵します。

昨年末に神父の片柳弘史さんをお招きして、

益城町交流情報センターで講演会を行いました。マザー・テレサから直接神父になることを勧められたという片柳さん。マザー・テレサのもとで見た、彼女の生き方についてお話しいただきました。マザーは、病気や貧困、差別等困難な状況にあるすべての人の中に、神様の存在を感じ、出会った人に、笑顔と、輝いた目、しっかり話を聴くこと、相手にぬくもりを与えることで、「あなたは大切な存在である」ということを伝え続けたそうです。すべての人が神様のご計画の中で、意味のある存在として生まれ、神に愛されているということを改めて心に刻みました。

今年は、熊本地震からの地域復興年であり、支援活動や支え合いの取り組みを通して「地域に生きるYMCA」としての真価を試される年でもあります。一方で、被災者であり当事者である職員に対しても寄り添っていかねばと考える

います。特に子育て世代への仕事と家庭の両立、働き方、暮らし方などへの意識を変えなければいけません。熊本YMCAは、昨年、熊本市から「子育て支援優良企業」として認定されました。子育て世代が安心して子育てと仕事の両立ができる働きやすい職場環境づくりを進めている企業などに送られるものです。しかし、YMCAの取り組みは、まだまだ整備の途中です。創造的な働きを生み出すためにも、職員一人ひとりの生活と働きのバランスが重要です。

様々な考え方やライフスタイルを持つ職員が生き生きと安心して働ける職場環境の整備が大切だと考えています。私たちの姿勢や活動が社会を変える、YMCAがそのような場所にならなければいけないと感じます。ニーバーの祈りにあるように「冷静さと勇気と知恵」を与えられていることを信じて歩みたいと思います。

talanton

R | E | P | O | R | T

第1回 熊本YMCAインターナショナル・チャリティーラン



障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざして開催するYMCAインターナショナル・チャリティーラン。1987年に国際賛助会 (FCSC) 主催で、初めてのチャリティーランを東京で開催して以来、全国20カ所にまで広がり、現在では年間1万2千人以上の皆さんがランナーやボランティアとして参加しています。昨年までに4億9,200万円以上が、YMCAが全国で展開する障がい児プログラムに充当されました。



2016年12月18日(日)には、熊本県農業公園カントリーパークにて第1回熊本大会を開催。晴天のもと、約480名のランナーが力走しました。大会は、YMCAの体育英語幼児園、ぶどうの木幼児園のマラソンに始まり、5kmを走る個人ランに19名、家族と一緒に1kmを走るファミリーランに15組、5名が1kmずつ走るグループランに60組が参加。会場には、食バザーやゲームコーナーも設けられ、家族連れなど、約1200名の来場者が冬の一日を楽しみました。

個人ラン 5km
真剣勝負の個人ラン。中学生のYMCAサッカーチームのメンバーも健闘しました。



グループラン 1km×5名
事前に申告した宣言タイムでのゴールを目指し、タスキをつなぎました。



ファミリーラン 1km
1家族4名までが参加。手をつないでゴールする姿に、大きな拍手が送られました。



大会結果はWEBページでご覧いただけます。
<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/portal/17990.html>

写真販売
当日の写真は2017年1月31日までの期間、閲覧・購入が可能です。
※当日参加者にお配りしたアクセスコードとパスワードが必要です。
<https://snappark.jp/>



食バザーやプレイパークなど21店が出店。合志弁天太鼓の演奏やゆるキャラたちも大会を盛り上げました。



地域の再生を考える —子どもたちの未来のために—

自力で「地域再生」する集落

私は1996年に55歳で鹿児島県鹿屋市串良町の集落、柳谷（通称やねだん）の自治公民館長に就任。以来、住民と一緒に「行政に頼らないまちおこし」に取り組んできました。

柳谷は300人ほどが暮らす小さな集落です。特産品も里山の美しさもなく、住民の4割が高齢者。館長に就任した当時、集落の蓄えはわずか1万円で、農地は荒れ果てる一方でした。「地域再生」の基本は“自立”、そしてカギは“財源”



です。行政の支援に頼るばかりではなく、できることは集落ですということが大切だと考え、耕作放棄地で県の特産品であるサツマイモの栽培を始めました。すると、2年後には財源が27万円まで増えました。この結果を受けて次第に住民からアイデアが出るようになり、集落の地中の細菌に米ぬかや砂糖を混ぜて醗酵させる「土着菌」を肥料にして販売。集落ブランドの焼酎の製造も始めました。その結果、2006年には500万円の余剰金が発生し、全世帯に1万円のボーナスを支給することもできました。

評判が広まり、人口も増加

「柳谷集落は活気が出てきた」と評判が広まると、今度は若者がUターンしてくるようになります。2007年には集落で5年ぶりとなる赤ちゃんも誕生し、減少の一途を辿っていた人口がようやく増加に転じたのです。

今では、柳谷集落の成功の理由を知るために全国の自治体の代表者や会社の経営者が5000

11月26日(土)に開催されたYMCA学院生涯学習セミナーの内容の一部をご紹介します。

人以上視察に訪れます。私が必ず伝えるのは、「真心と情熱を持って地域再生に挑んでください」ということ。小さな地域では、住民が全員で心をつなげて同じ目標に向かえるかどうか地域再生の成功を左右します。私は館長に就任した当時、集落の長老の協力を仰ぐのに大変苦労しました。何度も話し合いをして、私が真心と情熱を持って地域再生に挑んでいるということが長老に伝わったから、他の住民も積極的に協力してくれるようになったのです。人を動かすのは「感動」しかありません。リーダーは勇気と執念、アイデアとポリシーを持ち、まずは自分が動くことが重要です。そうすれば、自然と周囲の人たちが力を貸してくれるようになるはずですよ。



講師／豊重哲郎さん

鹿児島県鹿屋市串良町柳谷公民館館長／鹿児島県鹿屋市串良町出身。1996年に柳谷自治公民館長に就任。「行政に頼らない“むら”おこし」を実践する。著書に「地域再生—行政に頼らない「むら」おこし」がある。

Snap

読者の皆さんから寄せられた写真を紹介します。

「コーヒーいかがですか？」投稿者：シニア @カントリーパーク
YMCA国際ユースボランティアがチャリティーランのバザーに出店。がんばってくれました。



「ジェーンズクリスマス」投稿者：ジェーンズ @ルーテル大江教会
ジェーンズワイズメンズクラブのクリスマス例会。厳粛な礼拝後は楽しいひととき。



写真募集中

YMCAの活動の様子や思い出を写した写真を募集します。採用された方にはオリジナルノートをプレゼント!

応募はこちら▼



わたしと聖句



熊本ハーベストチャーチ 中村陽志

コヘレトの言葉4章9節

ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。

ちよつとした一言で…

昨年の熊本地震から約2カ月後の礼拝の時だったと思います。「私たちは神様の作品という説教をする予定で、礼拝中に折り鶴をみなさんに折っていただきました。こちらの意図としては、作り終わってみなさんのオリジナルの折り鶴ですよと言いたかったのですが、意外なことがわかったのです。案外折り鶴を作ることが出来ない方が多かったので。また、折り鶴を折れない方は、折ることのできる方に折り方を教えてと言えないし、折っている人は折れない方のお手伝いをしたくてもなかなかできない状況を見たのでした。

そこでは一旦、みなさんにお手を休めてもらいこう言ったのです。「ぜひ折り鶴の折り方を知っている方は、周りの方に何かお手伝いす

ることはありませんかと言っていただけですか？ また折り方がわからない方、また忘れてしまった方は恥ずかしがらずに、ちよつと教えていただけませんか？ と言ってください」。するとどうでしょうか、今までちよつとした緊張があった会衆が、その一言で一気に和やかになり、笑いさえも起こってきたのです。

私たちは人の手を自分のことで煩わせることを、躊躇してしまう傾向があります。ある意味、日本人の奥ゆかしさなのかもしれません。しかし本当に助けが必要なきにあなたは「助けて」と言えるでしょうか？ また、あなたのまわりの人々に「何かお手伝いすることはありますか？」と言っているでしょうか。周りを見渡して、助けが必要な人あなたの方からぜひ勇気を出して、「お手伝いさせていただきます」と言ってみるのはいかがでしょう？ きっとあなたのまわりに、あなたの助けを必要としている人がいるはずですよ。そのようなちよつとした心遣いであるあなたの家族、人間関係が良い方向に向きつけられるかもしれません。



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2016年度基本聖句

コリントの信徒への手紙Ⅱ 13章11節
思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。